

No.213
JAN.2018

THE FIRE ALARM SYSTEMS

火災報知機

● 巻頭言／「新年のご挨拶」 金森 会長

● 特集／最近の消防防災システム紹介シリーズ 69

〈新製品紹介〉

「アドバンスP-1シリーズ」

GP型1級受信機（自動試験機能付）

パナソニック株式会社

● 平成29年度 消防長官表彰式が開催される

● 火災!?故障!?電池切れ!?

住宅用火災警報器のブザー音を聞いてみよう!!

● 工業会だより

● 役員名簿／編集委員／編集後記



一般社団法人 日本火災報知機工業会

Japan Fire Alarms Manufacturers' Association

THE FIRE ALARM SYSTEMS

2018年 1月号 No.213

目次

火災報知機

- 1 巻頭言／「新年のご挨拶」 金森 会長

 - 3 特集／最近の消防防災システム紹介シリーズ 69
〈新製品紹介〉

「アドバンスP-1シリーズ」
GP型1級受信機（自動試験機能付）
パナソニック株式会社

 - 8 平成 29 年度 消防長官表彰式が開催される

 - 10 火災!?故障!?電池切れ!?
住宅用火災警報器のブザー音を聞いてみよう!!

 - 12 工業会だより

 - 21 役員名簿／編集委員／編集後記
-



新年のご挨拶

一般社団法人 日本火災報知機工業会
会長 金森 賢治

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

今年は「戌年」。犬といえば、忠犬ハチ公に代表されるように「忠誠心」のある動物である。来る日も来る日も、主人を待つ、信頼関係があったからこそその忠誠心だ。信頼関係はどのようにして生まれるのか？ 読んで字の如く、相手を信じて頼ることで生まれてくる関係であろう。

私は「信じる」ということはとても難しいことだと思っている。信じようと思っても、あちこちからいろいろなことが耳に入ってくると、よこしまな気持ちになってしまう。そのようなことにもぶれずに、自分が信じて疑わない気持ちを揺らすことなくいられるから頼れるのだ。会社とそこで働く従業員もこのような関係でありたいものだ。

去年は、大手企業のまさかと思うような不祥事が続いた。無資格の作業員による検査問題、品質に関する製品データの改ざん問題などである。会社の利益のために、忠義を尽くした結果なのか？ 良くない「内輪の論理」を「忠義」という言葉で納得させたと思えない。私たちも「内輪の論理」に留まることなく、視野を広げて業界発展を目指したい。

過去の戌年を振り返ると、景気面では穏やかな上昇を続けている傾向にあるようだ。北朝鮮やアメリカの動向など目を離せない状況であるが、今年も昨年を引き続き、景気の上昇を期待したいと思う。今年の話は、まず2月の平昌オリンピックであろう。12年前の戌年、冬季オリンピックで荒川静香選手が金メダルを取った。今年も羽生結弦選手を始めとした日本選手の活躍が期待される。さらに、2019年にはラグビーワールドカップ、2020年は東京オリンピック・パラリンピックと日本開催の大きなイベントが続く。それぞれ、日本勢の活躍を大いに期待したい。

大きなイベントに伴い建設される建物、また民泊の問題など、当工業会で取り組まなければならない事項もたくさんある。昨年、光警報装置の設置に関わるガイドラインが消防庁から出された。外国人観光客はもとより、高齢者や障がい者に非常に有効であり、業界全体として社会に役立つ製品を送り出すことで人々の安全・安心を支えていきたいと思っている。

当工業会では、住宅用火災警報器の設置義務化から11年を経て、交換を促進する活動に力を入れている。「とりカエル」のキャラクターを前面に押し出し、LINEスタンプやツイッター、着ぐるみなど、今までにない広報活動を続けている。

東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年には、累計約8,000万台の住警器が設置後10年を経過し、電池切れ等により火災時に有効に働かなくなる可能性が出てくる。住警器の設置有効

性は住宅火災の死亡者数の減少からも明らかであり、今後も消防庁等関係団体と連携をしながら更に交換を推進する必要がある。当工業会としても更に強力に広報を展開して行かなければならないと考えている。

また昨年は、新潟県糸魚川市における木造密集地域での火災や埼玉県入間郡三芳町での倉庫火災等の原因究明・対策のための実験・検証を当工業会としても全面的に協力を行ってきた。今年も、昨年から引き続き取り組むべき事項、また新たに取り組まなければならない事項も出てくるであろう。人々の安全・安心に「忠義を尽くす」という気持ちで、取り組んでいきたいと思う。

今年一年、当工業会に関わるすべての方々の健康を願い、新年の挨拶といたします。



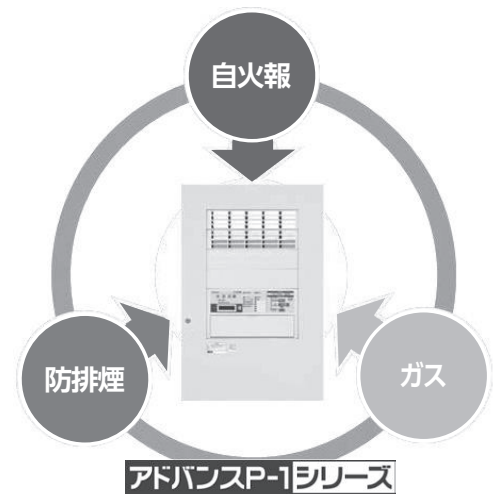
「アドバンスP-1 シリーズ」

GP型1級受信機（自動試験機能付）

パナソニック株式会社

パナソニック株式会社は、自火報、防排煙、ガス漏れの3つの機能を一体化したGP型1級受信機に自動試験機能、部屋番号表示機能を搭載した「アドバンスP-1シリーズ」GP型1級受信機自動試験機能付を開発いたしました。

本システムは、受信機、自動試験機能付感知器、一般型感知器、ガス漏れ警報器の組み合わせにより、さまざまな規模や用途の建物にフレキシブルな対応が可能です。更に、液晶・音声ガイダンス機能、連動設定や履歴情報などの管理ツールとして「連動設定PC」と連携することで施工・メンテナンス機能が向上し、点検・施工も容易になりました。



GP型1級受信機（自動試験機能付）

GP型1級複合受信機（自動試験機能付）

1. 商品ラインナップ

自火報受信機+防排煙連動操作盤+ガス漏れ受信機の3つの機能を一体化したGP型受信機に、自動試験機能を付加し更に高機能、省メンテのラインナップを拡充

受信機ラインナップ

品種	自火報	防排煙	ガス	型式番号	LPガス法型式番号	最大回線数
GP型1級受信機 (自動試験機能付)	○	—	○	受第29～1号	—	130L
GP型1級複合受信機 (自動試験機能付)	○	○	○			130L
LPガス用P型1級受信機 (自動試験機能付)	○	—	○	受第29～1号	MPJ1-6	130L
LPガス用P型1級複合受信機 (自動試験機能付)	○	○	○			130L

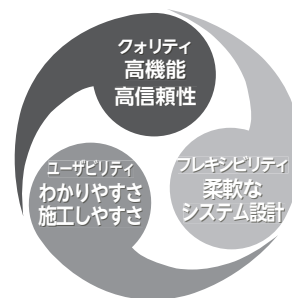
自動試験機能無タイプもラインナップ

2. 開発コンセプト

既存のP型受信機をご使用されている管理者様においては、R型システムは高機能だけれども、むずかしく、使いにくい印象があり、P型受信機のシンプルな操作が管理・運用上の安定感、安心感につながっています。

- ・ P型受信機のユーザビリティ
「わかりやすさ」「施工しやすさ」
- ・ R型受信機のクォリティ
「高機能」「高信頼性」
- ・ 連動設定PCによるフレキシビリティ
「柔軟なシステム設計」

“3つのよさ”を融合した、高機能受信機をコンセプトに開発いたしました。



アドバンス P-1 シリーズコンセプト

3. 商品特長

■ 高機能・高信頼性

1) 自動試験機能を搭載

- 試験・点検作業が省力化でき、システム信頼性が向上

自動試験機能付感知器、地区音響配線、予備電源などの状態を常時監視し異常発生時には、異常表示される自動試験機能を搭載、高いシステム信頼性に加え、感知器の加熱試験・加煙試験が免除されるため、立ち入りにくい場所の点検も素早く行え、試験・点検作業を大幅に省力化します。

2) 2線配線で火災・防排煙連動用に2種類の信号に対応

- 3線配線から2線配線への省配線化

2信号感知器（2線タイプ）の接続により1つの感知器で火災・防排煙連動用の2つの信号を取り出すことができ、防排煙連動用の感知器は不要です。また、従来のP型2信号感知器では配線が3本必要でしたが、2本で接続できる様になり、施工時の省力化が図れます。



光電式スポット型感知器2信号
(2線タイプ) (試験機能付)

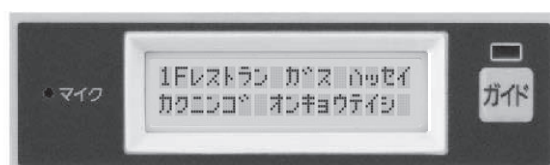
3) 部屋番号表示機能を標準装備

- 発報場所を特定し、初期対応が容易に行える

発報時液晶画面に部屋番号（英数字）を表示、連動設定PCで作成したメッセージ（英数字+カナ表示）も液晶画面に表示可能です。



火災発生時



ガス発生時

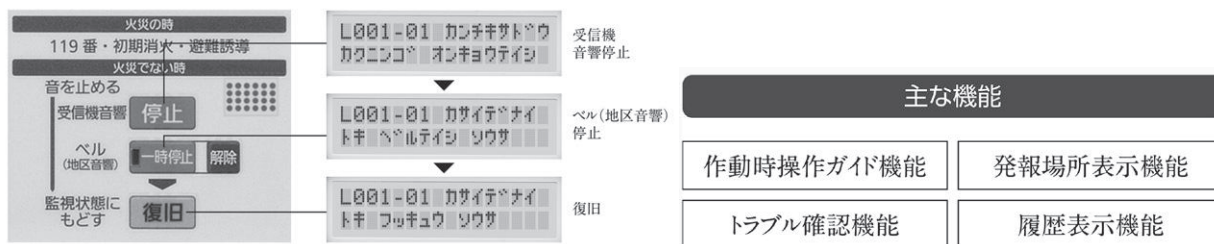
■ わかりやすい・使いやすい

1) 液晶ガイダンス機能

- 液晶画面に次の操作をガイダンス表示

感知器や発信機が発報した際、液晶ガイダンスを確認いただくことで、発報時の行動をサポートします。

■ 火災でないときのガイダンス表示 (例)



2) 音声ガイダンス機能

- 受信機の状態を音声でお知らせ

ガイドスイッチ等の点滅時にガイドスイッチを押すと、受信機の状態を音声メッセージでわかりやすくお知らせ、スムーズな運用をサポートします。



■ 音声ガイダンス一覧

状 態	音声メッセージ
火災警報(第一報)	火災感知器が作動しました。現場を確認してください。
火災警報(第二報)	火事です。火事です。火災が発生しました。現場を確認してください。
スイッチ注意灯点滅中	定位でないスイッチがあります。
受信機音響強制停止中	受信機音響強制停止中です。
地区音響強制停止中	地区音響強制停止中です。
トラブル発生中	トラブルが発生しました。トラブル確認スイッチを押して内容を確認してください。
電話呼び出し中	電話呼び出し中です。通話スイッチを押しながら話してください。

- 発報階音声メッセージ機能

火災発生と発報場所を、階メッセージでわかりやすくお知らせ、音声は、発報階や発報回線、エレベータや階段など詳細な設定も可能です。

増設スピーカーの接続で受信機と同じメッセージを離れた場所でも確認できます。



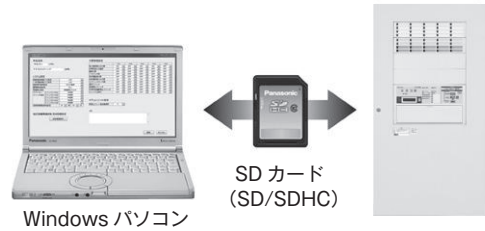
■ 柔軟なシステム設計

1) 連動設定PC連携機能

● 連動設定データ作成

パソコンで設定データを作成・管理が可能。複雑な設定もパソコン上で簡単、スピーディに作成が可能です。作成データはSDカードを介して受信機に読み込み可能なため、現地へのパソコンの持込も不要です。

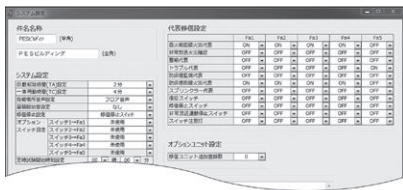
盤面でも作成、変更が可能で、現地での変更にも柔軟に対応が可能です。



● 自動試験結果・履歴情報の取り出しが可能

受信機からSDカードを介して、自動試験結果や履歴データを取り出し、CSV形式・PDF形式による出力が可能、試験結果報告書作成や施工調整などメンテナンスをサポートします。

連動設定データ



自動試験結果



履歴情報



2) ホテルなどへの火災表示灯や、集合住宅の住宅情報盤への火災移報に対応

● 中継リレーで複数感知器をグループ化して移報が可能

ホテル・病院等には、火災表示灯との組合せで現地の室外で火災発生室表示が可能に、集合住宅には、住宅情報盤との組合せで居住者にわかりやすく火災発生をお知らせできます。



3) 回線用途を自在に設定可能

● 防災関係設備を受信機1台でトータル管理

将来の回線数の増加や、回線種別の変更にも総回線数内であれば柔軟に対応ができます。

回線種別	自火報	諸警報	スプリンク	防排煙	防排煙復帰	ガス漏れ
自火報回線	○	○	○	—	—	—
兼用回線	○	○	○	○	○	—
ガス漏れ回線	—	—	—	—	—	○

4. おわりに

自動火災報知設備は、技術の進歩に伴い高機能化、複雑化しているとともに生命・財産を守る設備として、その役割はより重要になってきています。

機器の性能向上とともに、設備管理者による保守、緊急時の操作など、ソフト面にも目をむけることにより、より安全、安心な管理運営が可能となると考えます。

「アドバンスP-1シリーズ」GP型1級受信機自動試験機能付は、わかりやすい操作性、自動試験機能・部屋番号表示に代表される高信頼性、柔軟なシステム設計の実現をコンセプトにし、自火報+防排煙+ガス漏れを一体化した多機能受信機です。

今後も安全・安心のための商品の提供を続けられるよう日々研鑽に励んでまいります。

平成29年度



消防庁長官表彰式が開催される

平成29年11月2日明治記念館（東京都港区）2階「蓬莱の間」で「平成29年度消防設備関係功労者表彰式」、「平成29年度消防機器開発普及功労者表彰式」（消防庁長官表彰）が、（一財）日本消防設備安全センター関係の表彰式と合同で開催されました。

（一社）日本火災報知機工業会関係では、消防庁長官表彰に4名の方が受賞されました。誠にありがとうございます。

今後とも、尚一層のご活躍をご期待申し上げます。



稲山消防庁長官式辞



会場の様子

〈消防庁長官表彰受賞者（50音順）〉

金森 賢治	ホーチキ株式会社	代表取締役会長
松村 泰樹	パナソニック株式会社	エネルギーシステム事業部 システム機器ビジネスユニット 企画開発部 住宅市場課課長
宮内 久	ニッタン株式会社	顧問 営業推進本部
矢口 孝仁	能美防災株式会社	取締役 火報設備本部長兼首都圏西地区・九州地区担当



ホーチキ株式会社
金森 賢治 氏



パナソニック株式会社
松村 泰樹 氏



ニッタン株式会社
宮内 久 氏



能美防災株式会社
矢口 孝仁 氏



火災！？故障！？電池切れ！？

住宅用火災警報器のブザー音を聞いてみよう!!

一般社団法人 日本火災報知機工業会

一般社団法人日本火災報知機工業会のホームページでは、国内で販売している住宅用火災警報器15社のブザー音（火災、故障、電池切れ）を聞くことができる～「10年たったら、とりカエル。」スペシャルサイト～を設けています。

是非、一度聞いてみてください。

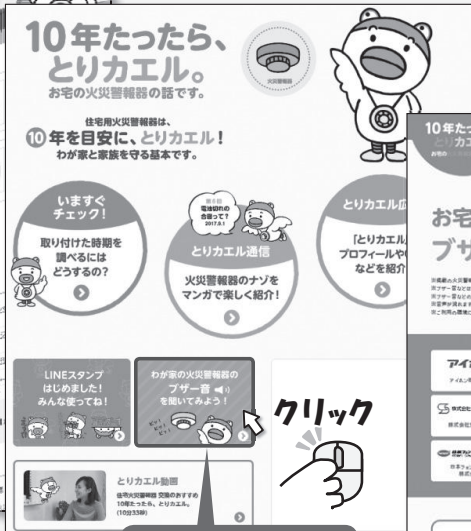
- ① 一般社団法人日本火災報知機工業会のホームページ (<http://www.kaho.or.jp/>) にアクセス
- ② 「10年たったら、とりカエル。」をクリック（タップ）し、次ページへ進みます。
- ③ 「わが家のブザー音を聞いてみよう！」をクリック（タップ）し、次ページへ進みます。
- ④ 「お宅の火災警報器のブザー音を確認してみよう！（<http://www.torikaeru.info/sound/>）」のページから住宅用火災警報器を個別に選んで、再生ボタンを押してください。

パソコン画面から

① ホームページトップ画面



② 「10年たったら、とりカエル。」をクリックする



③ 「わが家の火災警報器のブザー音を聞いてみよう！」をクリックする



④ ブザー音を確認の「PLAY」をクリックする



スマートホン画面から



①ホームページトップ画面

③『わが家の火災警報器のブザー音を聞いてみよう!』をタップする

リーフレットのQRコードを読み込むととりカエルスペシャルサイトに入れます



とりカエル 検索

10年たったら、とりカエル。お宅の火災警報器の話です。

お宅の火災警報器もそろそろ交換の時期ですよ!

とりカエルのLINEスタンプはじめてよ! みんな使ってね!

フリーダイヤル 0120-565-911

お宅の火災警報器の... www.tonikaeru.info

SH18455K

ブザー音を確認 /

火災 [PLAY]

故障 [PLAY]

電池切れ [PLAY]

※再生中に再度クリックして

④ブザー音確認の「PLAY」をタップ

お宅の火災警報器のブザー音を確認してみよう!

※掲載の火災警報器は、代表例です。
 ※ブザー音などは、機器によって異なります。
 ※ブザー音などの仕様や設置の注意があります。
 ※音声は流れません。お楽しみください。
 ※ご利用の機種によっては再生できない場合があります。

スクロール

アイホン	QICI	東芝
SECOM	ALSOX	東芝
TOSHIBA	日産	NITTAN
NDC	日産	NIDARI
Panasonic	日産	日産

聞きたい会社をタップ



工業会だより

(No.213)

理事会

平成29年11月15日

[理事会]

〈報告事項〉

- ①平成29年9月度理事会議事録について
- ②平成29年10月会計報告について
- ③事務職員の出向配置について
- ④事務局長会議議事概要について
- ⑤消防機器等製品情報センター運営会議議事概要について
- ⑥第7回住警器設置対策会議議事概要について
- ⑦住警器・感知器・受信機等の検定申請個数及び受託評価依頼個数（10月）
- ⑧住警器相談室の相談受付件数（9月・10月）

〈資料〉

- ①平成29年秋の褒章（消防関係）について
- ②平成30年の理事会・定時総会等の開催予定日について

(3)拡大設備委員会のスケジュール等について
審議

大阪市消防局との業務懇談会を開催
(平成29年10月10日)

消防局、工業会総勢16名が参加し、双方の質疑事項、要望事項、情報提供などについて意見交換

関西支部設備委員会研修事業
(平成29年10月24日)

一般社団法人全国消防機器協会が主催する消防機器等に関する研修会を聴講

京都市消防局との業務懇談会を開催
(平成29年10月31日)

消防局、工業会総勢17名が参加し、双方の質疑事項、要望事項、情報提供などについて意見交換

加古川市防災フェスタ2017に参画
(平成29年11月3日)

住宅用火災警報器の啓発宣伝活動を実施

関西支部

堺市消防局との業務懇談会を開催
(平成29年10月5日)

消防局、工業会総勢19名が参加し、双方の質疑事項、要望事項、情報提供などについて意見交換

第343回関西支部定例設備委員会
(平成29年10月10日)

- (1)大阪市消防局との業務懇談会最終打ち合せ
- (2)平成30年度設備委員会事業について審議

第344回関西支部定例設備委員会
(平成29年11月10日)

- (1)神戸市消防局との業務懇談会の最終打ち合せ
- (2)平成30年度設備委員会事業について審議
- (3)啓発宣伝事業「住宅用火災警報器の啓発宣伝用リーフレット、グッズ等の作成」について審議
- (4)講師打ち合せ懇談会の開催について審議
- (5)拡大設備委員会のスケジュール等について審議
- (6)加古川市防災フェスタ2017での啓発宣伝活

動結果について審議

(7)平成30年堺市消防出初式での住警器等啓発
宣伝活動について審議

神戸市消防局との業務懇談会を開催

(平成29年11月10日)

消防局、工業会総勢15名が参加し、双方の質
疑事項、要望事項、情報提供などについて意見
交換

第423回関西支部定例役員会

(平成29年11月16日)

- (1)啓発宣伝事業「住宅用火災警報器の啓発宣
伝用リーフレット、グッズ等の作成」につ
いて審議
- (2)啓発宣伝事業「堺市消防局出初め式での住
警器の啓発宣伝活動」について審議
- (3)啓発宣伝事業「加古川市防災フェスタ
2017」での啓発宣伝活動結果について審議
- (4)平成30年度設備委員会事業について審議
- (5)講師打合せ懇談会の開催について審議

一般社団法人奈良県防災安全協会主催「消防設 備保守業務研修会」への講師派遣

(平成29年11月24日)

関西支部設備委員会委員を講師として派遣

高槻市消防フェスティバルに出展

(平成29年11月25日)

住宅用火災警報器コーナーを出展し啓発宣伝
活動を実施

第345回関西支部拡大設備委員会

(平成29年12月1日)

- (1)大阪、京都、神戸、堺市消防局との業務懇
談会開催記録について審議
- (2)高槻市消防フェスティバルでの住警器の啓
発宣伝活動状況について審議

中部支部

火報・消装合同技術研修会

(平成29年10月6日)

- ・火報・消装技術委員会合同で、技術研修会
を開催

火報・消装合同研修会

(平成29年10月19日)

- ・火報・消装合同で、研修会を開催

火報・消装合同視察研修会

(平成29年11月8日)

- (1)航空自衛隊 浜松広報館 (エアーパーク)
- (2)彦根城
- (3)うなぎパイファクトリー
- (4)視察調査結果の意見交換、次回への反映確
認

火報・消装合同役員会

(平成29年11月20日)

- (1)平成30年新年互礼会(案)の開催について
実施計画(日にち、場所、規模等)につい
て
- (2)平成30年度予算(案)について
平成29年度の事業実施内容と平成30年度事
業計画における予算建てについて
- (3)平成30年度火報・消装定期総会開催(案)
について
開催日時、場所、形態(合同)について
- (4)火報・消装合同視察研修会の結果について
結果、経費及び次回の予定等について
- (5)その他
 - ア. 技術委員会の進捗状況等について
 - イ. 平成30年度年度計画(案)について
 - ウ. 合同研修会について
 - エ. (一財)愛知県消防設備安全協会定例
表彰について

技術委員会

(平成29年11月30日)

- (1)調査・研究事項
資料等の追加、確認
- (2)報告書の取りまとめ方法について
報告書体裁、最終内容の確認(持ち帰り)
- (3)今後の日程について
来年度の課題、今年度最終会議の調整

業務委員会

1. 総会・理事会の報告について

- ・平成29年9月度理事会概要報告

2. 住宅用火災警報器関連の報告について

- ・住警器相談室の受付件数について
- ・住警器・感知器・受信機等の検定申請個数及び受託評価依頼個数の推移他
- ・消防防災用設備等認定及び評定合格数
- ・「10年たったら、とりカエル」A3版リーフレットの改訂について
- ・着ぐるみ「とりカエル」の貸し出しについて
- ・第44回国際福祉機器展報告

3. 全国消防機器協会関連会議報告

- ・事務局長会議議事概要について
- ・消防機器等製品情報センター運営会議議事概要

4. 住宅用火災警報器設置対策会議報告

5. 全国消防長会予防委員会報告

6. 「外国人来訪者等が利用する施設における避難誘導のあり方等に関する検討部会」報告

7. 連動型住宅用火災警報器を活用した検証事業報告

8. 火報工からの連絡等

- ・平成29年秋の褒章について
- ・東京消防庁人事について
- ・日本消防検定協会役員交代について
- ・光警報装置の設置に係る指導基準の策定について
- ・受信機・中継器の検定細則の誤記について
- ・住警器の点検・交換の必要性について、継続した消費者への啓発要望について
- ・冬季の省エネルギーの取組について
- ・平成29年度第5回「地方公共団体の危機管理に関する研究会」の開催について
- ・「平成29年度危険物安全週間推進標語」の募集について

〈報告〉 業務委員長 諏訪本 篤

〈委員会開催〉 10月12日、11月9日

技術委員会

1. 光警報システム検討小委員会

- (1)光警報装置と受信機の全波整流電源との接続について

サクサプレシジョン製光警報装置を受信機の全波整流電源に接続できるか確認を行った結果、完全直流電源(平滑電源)のみ接続できることを確認した。

- (2)東京消防庁の「光警報装置の設置に係る指導基準の策定」について(通知)

東京消防庁から発出されている通知について、内容の確認を行った。

- (3)光警報制御盤について

サクサプレシジョン製光警報制御盤の申請状況および要望事項の確認を行った。

2. 火報システム技術検討小委員会

- (1)受信機、中継器の検定細則の改正

日本消防検定協会から発行された受信機、

中継器の検定細則正誤表について確認を行った。

(2)糸魚川大火検証事業 検討小委員会

消防庁が今年度実施する連動型住宅用火災警報器を活用した小規模飲食店等を含む隣接建物間での火災早期覚知の方法に関する検証事業において、設置時に関係者へ説明するためのリーフレットおよび設置報告書の内容について確認を行った。

3. 火報試験基準検討小委員会

(1)濃度計用白熱球のLED化検討WG

平成29年10月開催の第8回WGにて、11月に日本消防検定協会の炎感知器試験室で実施する実験内容の確認を行った。

小型試験箱に白色LEDを設置し、恒温槽で-10℃、+20℃、+50℃の環境における受光量のデータ取得を行った。ペルチェによるLEDの温度制御により異なる周囲温度でも概ね安定したデータが取得できたため、12月に煙試験箱を使用して煙を発生した状態で白熱電球との比較実験を行う予定。

4. 連動機構・装置等自主評定委員会

平成29年9月開催の第78回連動機構・装置等自主評定火報専門委員会にて、連動制御器の型式承認申請3件、型式更新申請5件、軽補正申請1件、自動閉鎖装置の軽補正申請1件、連動中継器の軽補正申請1件について審査が行われ、平成29年10月開催の第62回連動機構・装置等自主評定委員会で型式承認申請案件の承認と、その他案件の了承が行われた。

平成29年10月開催の第14回諸規定等改正WGにて、自動閉鎖装置から連動制御器への作動確認信号について審議を行った。

5. 非常用放送設備専門委員会

電子情報技術産業協会（JEITA）主催による平成29年度第2回専門委員会が平成29年10月に

開催され、火報工より技術委員長がオブザーバーとして参加した。WGの活動報告のほか、非常用放送設備等の出荷統計の報告が行われた。

非常放送技術基準WGでは火災信号インターフェイスに関するガイドライン制定の検討を行っており、JEITA TTR-4703「非常用放送設備技術基準に関するガイドライン」に、受信機との接続インターフェイス仕様を追加することを検討している旨の報告があった。

6. 戸外表示器管理委員会

インターホン工業会主催による第22回戸外表示器管理委員会が開催され、技術委員長が副委員長として参加した。平成28年10月から平成29年9月までの戸外表示器審査会の活動報告が行われ、管理委員会で承認された。

同日開催された第331回戸外表示器審査会にて、申請10社、型式確認36件、その他10件の計46件について審査が実施され、全件について合格とされた。

7. 大阪市消防局との業務懇談会

関西支部が10月に開催した大阪市消防局との業務懇談会に技術委員長が火報工本部として出席した。本部より火災報知機工業会の活動内容について説明した他、関西支部から大阪市消防局への質疑・要望事項の回答、その他質疑応答を行った。

<報告> 技術委員長 森田 淳

<開催> 9月21日、10月19日、11月16日

システム企画委員会

1. 光警報システムについて

(1) 光警報装置のデモパネルについて

光警報装置の動作を確認いただけるデモパネル（写真参照）をシステム企画委員会にて作成し、工業会として各消防本部等にPRできるようにしております。10月から11月にかけて開催されました当工業会関西支部と大阪市消防局、神戸市消防局、京都市消防局、堺市消防局との業務懇談会では、デモパネルを使用して光警報装置の動作を紹介いたしました。



2. 火報企画検討小委員会

(10月16日 開催)

(1) 総合操作盤の告示（平成16年）について

上記告示において、CRT等への表示事項について、旧告示との記述の相違に伴う解釈について問い合わせがあり、まずは「平成9年告示と平成16年告示の差異に関する比較表」を作成し、課題を整理致しました。今後、消防庁と相談し、対応を図る予定です。

3. 火災報知システム自主管理委員会

(11月21日 開催)

本委員会開催に先立ち、10月13日に火災報知システム自主管理専門委員会を開催しました。各社の申請資料を委員が相互に確認し、不備事項についてフィードバックを行いました。また、各社報告のリハーサルも実施しております。

本委員会は、外部からのオブザーバ委員もご出席いただき、11月21日に開催致しました。まず自主管理制度の概要をご説明し、同専門委員会の経過報告を行いました。この後、申請書内容について適正であることを確認いただき、更に各社からの専門技術者講習会実施報告により、今年度の登録申請が承認されました。今年度は新規294名、更新686名、再交付3名、記載事項変更31名、抹消158名で、この結果、今年度の火災報知システム専門技術者の登録人数は3,598名となりました。

〈報告〉 システム企画委員長 上田 毅

〈開催〉 9月29日、10月30日、11月27日

設備委員会

1. 設備性能基準化小委員会

(1) 光警報装置の設置を示すピクトグラム作成検討活動

経済産業省国際標準課からの委託事業として、日本規格協会が事務局となり、光警報装置のピクトグラムに関するJIS Z8210（案内用図記号）改正原案作成委員会のための準備として、12月6日に開催される勉強会の事前打合せを11月29日に行った。

参加者は、経済産業省関係者、日本規格協会、ISO/TC145（図記号）国内対策委員長、ISO/TC21/SC3（火災感知及び警報システム）国内審議団体委員長、火報工からは、委員長、

副委員長、事務局の3名が参加した。

(2)光警報装置の設置に関する広報活動

(一社)全日本ろうあ連盟、(一社)全日本難聴者・中途失聴者団体連合会へ「光警報装置のおすすめ」新パンフレットPDFデータの送付と共に、火報工ホームページの掲載場所の紹介、障がい者団体会員への周知、案内をお願いした。

(3)東京消防庁 予防部予防課の依頼対応

東京消防庁予防部予防課より「光警報装置の設置に係る指導基準の策定について(通知)」(案)の内容確認依頼があり、小委員会で審議を行い要望等について回答した。

その後、9月29日に東京消防庁予防部長通知29予予第891号「光警報装置の設置に係る指導基準の策定について(通知)」が発出された。

(4)国交省大臣官房官庁営繕部 設備・環境課の依頼対応

①「建築設備計画基準」、「建築設備設計基準」(平成30年版)の改定二次案意見募集依頼対応

小委員会で審議を行い令別表第一の分類、文中・図等の訂正とP型受信機の機能においては、全てのメーカーの標準機能でないものは、削除または指示のとおり訂正する旨を改定意見とし、9月15日に提出した。

②「公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)平成28年版」等の改定意見、国交省ヒアリング依頼対応

8月14日に国交省大臣官房官庁営繕部設備・環境課へ提出した改定意見について、国交省からヒアリングの要請があり、10月10日、正副委員長、委員、事務局の5名で国交省に訪問、国交省設備・環境課の電気技術係長、同電気基準係長、同係員の3名

と面談を行い、改定意見説明後に空气管の「ちょう架用線等」による取付け方法に追記する表現方法(記載文)の検討を要請された。

10月26日の小委員会では、各社の施工代表者も交えて審議を行い、ちょう架用線等を使用して敷設する場合の方法を、熱電対に関する項にも同様に追記し、10月27日に国交省へ提出した。

(5)(一社)電気設備学会「難燃性ケーブル認証に関するアンケート」の依頼対応

10月19日の小委員会で調査依頼項目について審議を行い、自動火災報知設備では、消防庁告示適合品のケーブルを使用している旨を記載して10月20日に(一社)電気設備学会へアンケートを提出した。

(6)防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件の一部を改正する告示案対応

「埼玉県三芳町倉庫火災を踏まえた防火対策及び消防活動のあり方に関する検討会」の方策についての提言による、国交省告示(昭和48年建設省告示第2563号)改正案(「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件の一部を改正する告示(案)」)についての意見募集が、11月8日に国交省住宅局建築指導課から通知された。

11月14日に臨時小委員会を開催して審議を行い、告示案の意見募集に紹介された告示案の解説した概要を、公布時にも告示改正通知等に掲載して発出して頂くよう総務省消防庁を通して国交省へ依頼した。

小委員会は、9月25日、10月19日、10月26日、11月22日の4回開催した。

2. 工事基準書小委員会

「工事基準書ハンドブック（平成27年版）」
改訂小委員会

全203ページまで見直しが進み、改訂すべき事項が89項目あげられた。

小委員会は、9月12日、10月3日、11月14日の3回開催した。

3. 関西地区（神戸市消防局）懇談会

神戸市消防局と関西支部との懇談会に参加、意見交換を行った。

4. 外部委員会

(1)消防庁「外国人来訪者等が利用する施設における避難誘導のあり方等に関する検討部会」

「外国人や障がい者等に配慮した火災・地震時情報伝達・避難誘導のための試行訓練」が駅・空港・競技場・旅館・ホテル等の全国6カ所で実施され、火報工は、評価者として参画した。

(2)東京消防庁「第23期火災予防審議会」

「人命安全対策部会」第2回、第3回、「小部会」第3回、第4回に参画

(3)第106回 全国消防長会予防委員会

山口県宇部市で開催され、火報工は、オブザーバーとして参加、情報提供として「光警報装置の工事基準書」の紹介を行った。

<報告> 設備委員長 石中良治

<開催> 9月28日、10月26日、11月22日

メンテナンス委員会

維持運用管理手法小委員会

①点検実務マニュアル改訂WG

<開催> 10月17日、11月6日

「平成27年度版自動火災報知設備の点検実務マニュアル」の大幅な改訂を行う。

全体を1章～9章までとし、担当者を決め改訂作業を進めている。

特に、点検基準、点検要領と点検票の記載項目について連動させてポイント解説を記載し、点検の判定基準等の指針についても判り易く掲載する予定。

発行は、2018年7月を予定。

②「イオン化式感知器の廃棄と処理について」パンフレット作成WG

<開催> 9月20日、10月18日、11月15日

・「放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律の経緯」の確認を行い、現行パンフレットの記載内容に訂正すべき点（罰則等）の確認を行った。

・記載されている会社名・連絡先等の確認を行い、修正作業を行った。

発行は、2018年7月を予定。

関西地区懇談会報告

<開催> 10月31日

小職、火報工の本部及び関西支部で京都市消防局を訪問し、火報工の各委員会の活動説明及び意見交換を行った。

グリーン購入法について

公的機関において、煙感知器の点検等に使用するガスは、ノンフロンガスとすることが追加されるパブコメ募集（施行は2018年4月、経過措置は1年間）が11月9日付で環境省から発出された旨の報告を行った。

<委員会開催> 9月20日、10月18日、11月15日

<報告> メンテナンス委員長 成宮淳一

住宅防火推進特別委員会

1. 住宅防火防災推進シンポジウム

住宅防火対策の重要性を周知し、住宅用火災警報器、住宅用消火器及び防災品等の普及を図るとともに、住宅における防災対策も含めた住宅防火防災対策の積極的な推進を目的として開催され、平成29年度は、5会場で予定されています。

「横浜市民防災センター」と「岡垣サンリーアイ」でのシンポジウムが開催されましたので、開催状況の報告を致します。

(1)第100回住宅防火防災推進シンポジウム&防災ふれあいフェア

日 時：平成29年11月11日(土) 11:00~16:00

会 場：横浜市民防災センター及び沢渡中央公園（横浜市神奈川区沢渡）

主 催：消防庁

共 催：横浜市消防局、住宅防火対策推進協議会

11月11日(土)に第100回の記念開催となった住宅防火シンポジウムが横浜市民防災センター及び消防ふれあいフェアが横浜市民防災センター及び沢渡中央公園にて開催された。今回は、100回記念とのことで消防庁が主催となり、横浜市消防局が共催という形で開催され、当工業会のブースにダニエルカールさんと全国火災予防運動ポスターモデルの松風さんが来られたので住警器について説明を行った。

(2)住宅防火防災推進シンポジウムin遠賀&消防フェア

日 時：平成29年11月18日(土) 13:15~16:15

会 場：岡垣サンリーアイ（福岡県遠賀郡岡垣町野間）

主 催：住宅防火対策推進協議会

共 催：遠賀郡消防本部

福岡県遠賀郡の岡垣サンリーアイで遠賀郡消防本部が共催となり遠賀&消防フェアが開催さ

れた。基調講演で無線連動型住宅用火災警報器についての話があり、工業会ブースに説明を聞きに来られる方がおられた。消防フェアは、子供連れの方が多数来場されノベルティグッズを多く配布でき、とりカエル活動を推進する事ができた。

今後平成30年には、(3)~(5)のシンポジウムが予定されている。

(3)兵庫県尼崎会場（平成30年 2月3日（土））

「あましんカルカイクホール」

・共催：尼崎市消防局

(4)高知県四万十市会場（平成30年2月17日（土））

「四万十市立文化センター」

・共催：幡多中央消防組合消防本部

(5)沖縄県浦添市会場（平成30年3月4日（土））

「浦添市てだこホール」

・共催：浦添市消防本部

当工業会は消太くん、展示パネル等の貸し出し及び住宅用火災警報器の必要性和維持管理、定期交換等について説明を行う予定です。

2. 住宅火災警報器交換推進ワーキング活動報告

住宅防火推進特別委員会の下に設置しました維持管理及び定期交換推進ワーキングで、以下の内容を検討しました。

(1)全国消防長会「週間情報」掲載依頼記事

住警器のブザー音を聞いてみよう！のタイトルで、以前に掲載していただいた「10年たったら、とりカエル。」スペシャルサイト、お宅の火災警報器のブザー音を確認してみようの項目があまり知られていないため、スペシャルサイトからの入り方を画面で表示を行い、確認しやすいようにした記事を全国消防長会「週間情報」に掲載依頼を行い12月5日に全国消防本部へ発信されました。

(2)「とりカエル」シール制作について

LINEスタンプの24種類より12種類を選

定して、イベント等で配布するために「とりカエル」シールの制作を行いました。各委員へサンプル配布を行い、シールに対する感想を募っています。尚、今後イベント等でシールを活用するために費用の有無及び配布枚数制限等について検討を推進しております。

3. 東京都消防長会住宅用火災警報器設置対策連絡会について

日 時：平成29年10月26日(木) 15:30～17:00
場 所：芝消防署4階大会議室

芝消防署にて第8回東京都消防長会住宅用火災警報器設置対策連絡会が開催された。東京消防庁鈴木予防部長様を座長とし東京消防庁各方面より19名の委員とオブザーバー3名の出席者により会議が開催された。

会議実施内容は、以下の3点

- (1)連絡会概要説明及び前回国議議録確認
- (2)消防庁からの情報提供「住宅用火災警報器の設置率と推進状況等について」
消防庁予防課 柏原予防係長
- (3)一般社団法人日本火災報知機工業会からの情報提供

以上の報告確認がありました。

4. 住警器電話相談受付件数

平成29年

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
41件	68件	62件	43件	70件	74件	68件

※平成29年4月～10月までの相談受付件数 426件

(内容は、設置場所97件、販売店等58件、種類53件、販売価格35件、取付方法30件等)

<報告> 住宅防火推進特別委員長 青木 良二

<開催> 5月24日、6月28日、7月26日

役員名簿

〈平成29年8月1日現在〉

役職名	常勤・非常勤	氏名	所属
理事(会長)	非常勤	金森賢治	ホーチキ(株)代表取締役会長
理事(副会長)	非常勤	伊藤龍典	能美防災(株)代表取締役社長
理事(副会長)	非常勤	板倉秀樹	ニッタン(株)代表取締役社長
理事(専務理事)	常勤	川上克巳	一般社団法人日本火災報知機工業会
理事	非常勤	遠山榮一	日本ドライケミカル(株)代表取締役社長
理事	非常勤	田原仁志	日本フェンオール(株)代表取締役社長
理事	非常勤	荒井一	日信防災(株)代表取締役社長
理事	非常勤	久保雅男	パナソニック(株)ES社 エナジーシステム事業グループ システム機器BU長
理事	非常勤	村井知則	ヤマトプロテック(株)監査役
理事(事務局長)	常勤	鈴木博也	一般社団法人日本火災報知機工業会
監事	非常勤	藤倉大樹	藤倉電気工業(株)代表取締役
監事	非常勤	鈴江昭	中央報知機(株)代表取締役

編集委員

委員長 諏訪本 篤 (ホーチキ(株))
委員 高橋 薫 (能美防災(株))
中沢 崇 (ニッタン(株))

委員 青木 良二 (パナソニック(株))
会沢 潔 (事務局)

■ 編集後記 ■

明けましておめでとうございます。

本年も機関誌「火災報知機」をよろしくお願い致します。

今年は戌年(いぬ)です。戌年生まれの人性格ですが、義理人情に厚く十二支の中で最も誠実さに溢れた人。心を許した相手には、ずっと変わらない友情を持ち続けて決して自分から裏切るようなことはない。また、忠誠心が強いので成功を得ることが多い一方、他人から干渉されることを嫌う面もあるので、基本的には独立独歩の運勢となる。様々な芸術面で活躍されている方が多い。とあります。

同じ年に生まれた男女全ての人と同じ性格であろうはずがない！などと素直に受け入れることが出来ないのは、へび年の性格でしょうか？

昨年の1月号でゴルフスコア100切りを宣言しましたが、恥ずかしながら達成することが出来ませんでした。引き続き頑張ります。

早いもので1月末で定年になります。今回が最後の担当となります。長い間ありがとうございました。とりとめのないことを書きました。お許し下さい。

(会沢)



一般社団法人 日本火災報知機工業会
Japan Fire Alarms Manufacturers' Association

発行 一般社団法人 日本火災報知機工業会
〒110-0016
東京都台東区台東 4-17-1 偕楽ビル（新台東）
電話 (3831) 4318 (代)
URL <http://www.kaho.or.jp/>
印刷 株式会社アイネット
平成 30 年 1 月 15 日 印刷 平成 30 年 1 月 15 日 発行